

玄界灘から見る古代日本

著者 高川 博

出版社・梓書院 定価・千八百円（税別）

島国である日本の歴史を考える場合、周囲を取り巻く海、そこを行き交う人々を考察することが欠かせない。本書は主として玄界灘（対馬海峡）に視座を置いて、古代の人々の移動や物流の状況を考察し、その姿を復元する。

●九州大学応用力学研究所の地上レーダー観測により、対馬海峡には直径何十キロという巨大渦の存在が判明している。（考古学・古代史の分野では未知の世界）当然、この渦は渡海に挑む舟（船）に大きな影響を与えた。

●対馬と朝鮮半島（巨済島）の間には鴻島や北・南兄弟島といった孤島が存在し、渡海の際には目印や休憩、避難場所として重要な役割を果たした。

●宗像と壱岐を結ぶ海上には小呂島があり、古来宗像勢力の航海ルートとして重要であった。後に宗像勢力と誼を結んだヤマト王権は、これを新たなバイパスルートとした。

